

二、「右 ふくち山 左 なりあい 是より九り十八丁」

③茶堂水碑 (詳細は「茶堂と貞心道者」に記載)

④一道貞心禅者の供養塔 (詳細は③と同様)

⑤七里祖宗和尚入寺記念成碑 (詳細は「放光院・大師堂」に記載)

⑥大峰山上三十三度供養塔



世話人 先学院

村々達

(行者座像) 御

免 大峰山三十三度供養

夜久野郷今西中邑大先達大江学正院

(註、天保己亥年―天保十年・一八三〇年)

(2)

ちなみに、正面上部に陽刻されている座像は役行者で修験道の祖とされている。

⑦百万辺供養塔

この供養塔は実に千七百五十二人ももの講中(こうじゅう)によってなされたものであり、その地域もこの茶堂を中心に丹波・但馬の国境を越えた親しみ中で近在の諸村によって共同で維持管理されてきていることと思ひ合わせて、さすがに「茶堂」ならばこそその感を深めるものである。(注)講中↓神仏にお参りに行く為に作った団体の人々



碑文

講中丹波千七百五十二人  
但馬

念佛百萬遍供養塔

願主 丹波小倉 夜久伝七

法名 賢峰玄則信士

(2) 鄉向寛政十一己未秋豊前州中津自性寺海門和尚行性之路次過  
此鑛野之日教示某信男勸念仏三昧爾来一人唱誦千辺展転遷  
千一千余人集功至大也幸今春値東源禪寺之勝会願主拝諸東禪  
一山禪師乃一百五十余員之清衆以伸供養之儀回法界 銘碑  
伝之不朽尙,享和元年 酉三月

東奥会津圓藏隱栖 天龍誌焉